

2024年夏／615千葉県民の日イベント

市民が表現し共感する

茨木のり子の詩情世界

—— 松戸商工会議所・別館ホール



□主催 松戸県民の日記念イベント実行委員会
□共催 (一社) 洗楓座、松戸朗読と文学の会
□後援 松戸市教育委員会、千葉日報社、東京新聞、
わがふるさと支援(株)、(一社) バサルトファ
イバー研究所、NPO再チャレンジ東京



Designed by 一色宏

「愛は努力である」
by プラトン

“Love is Action”
by マザー・テレサ

「寄りかからず」「自分の感受性くらい」
「怒るときと許すとき」「対話」「握手」
「歳月」・・・

茨木のり子の詩は、大胆に、勇敢に、
自分らしく生きることを後押ししてくれま
す。これが、未来につながる自由でウェ
ルビーイングな選択ではないでしょう
か。

*Be Bold,
Be Brave,
Be You !
Yes, We can,
like as
Noriko Ibaragi.*

□発行：一般社団法人 洗楓座 □編集：青柳浩生
□WEB：http://www.kofuza.com/html/event.html □Mail：ksato@kofuza.org
□Tel：090-1268-5882 □発行日：2024年6月15日 □売価：500円（60部限定）

序

6月15日は、千葉県民の日とされており、県内の小中学校なども休校となっています。今年はその日は土曜日
で多くの人とともに、千葉県についての愛着を
醸成したいと思います。

そうした思いになれるのは、日本が「平和」
であるからです。

いまから98年前の6月12日は、

詩人・茨木のり子の誕生日でした。

彼女は、戦時下に青春時代を過ごし、当時の思いを、

『わたしが一番きれいだったとき』という詩に、書いています。

茨木のり子は、『六月』という詩も遺しています。

しかし、それはいわゆる6月、水無月についての詩ではなく、

私たちの暮らし——どこで、いかに生きるか——

についての、詩人の意思を表現しています。

それを、このイベントでは

「愛と平和」についての詩情世界としても、

感じ取りたいと思います。

企画 佐藤建吉（青柳浩生）／高谷秀司

2024年6月15日



#茨木のり子

茨木のり子、本姓・三浦、1926年（大正15年）6月12日、2006年（平成18年）2月17日）は、日本の詩人、エッセイスト、童話作家、脚本家。結婚前は、宮崎園子。三浦安信（医師）と1949年に結婚。1953年5月に「詩学研究会」の仲間の川崎洋と同人誌「樺」を創刊。創刊号は川崎洋・茨木のり子の二人。二号から谷川俊太郎、三号から吉野弘、舟岡遊治郎、四号から水尾比呂志が参加、その後は中江俊夫、友竹辰、大岡信などの詩人が参加。

主な詩集に、『対話』『見えない配達夫』『鎮魂歌』『自分の感受性くらい』『寄りかからず』ほか。戦時下の女性の青春を描いた代表作の詩「わたしが一番きれいだったとき」（1958年刊行の第二詩集『見えない配達夫』収録）は、多数の国語教科書に掲載されている。

#詩情世界

茨木のり子の詩には惹かれる人が多い。その詩人は、生きた時代背景に強く影響されているが、そうした状況を考現して洞察している。彼女が遺した詩情は自身の歳月の証となった。それは現代においては、情況を詩にしたのではなく詩が情景を再現し、私たちを共感させる詩情となっている。それは詩情遺韻でもあり、詩情世界として私たちは共有できる。

次第

○日時 2024年6月15日午後2時～4時

○会場 松戸商工会議所・別館ホール

(一) 第一部 生きる

自分の感受性くらい 時代おくれ 汲む こどもたち

(二) 第二部 愛と平和

わたしが一番きれいだったとき

内部からくさる桃 それを選んだ 他

(三) 第三部 六月

母さんのアイスクリーム 花の名 握手 六月

新・千葉県民歌披露



#一般社団法人 洗楓座 (じゅうふうざ)

〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5 国際善隣会館4B
地域快活を自然エネルギー、ブルネル、ローカル鉄道応援酒「鐵の道」、まちなか大学院、茨木のり子などを進める活動を行っている。
<http://www.kofuza.com>

#松戸朗読と文学の会

千葉県松戸市で、毎月水曜日の午後開催される。「人間は表現する動物である」をミッションとしている。通算で108回を超えている。
<https://www.facebook.com/groups/1469434473815759>

#洗楓座の茨木のり子の行事例

2019年11月9日、江戸川区
20年10月9日、渋谷区
21年12月22日、港区
22年11月6日、軽井沢町
22年11月17日、軽井沢町
22年11月23日、千代田区
23年6月12日、北区
24年2月17日、目黒区

オープニング

主催者スピーチ 松戸での県民の日記念イベント実行委員会

会長 小山勝

松戸において朗読と文学の会を毎月開催してまいりましたが、いつの間にか108回を数えることになりました。その会でも、昨年は3回、つまり三ヶ月にわたり茨木のり子の詩を取り上げました。今回の「茨木のり子の詩情世界」は、その延長にあり、千葉県民の日に、松戸でこれを行うことは、意義深いことであります。世界が混乱にあるいま、茨木のり子の詩から学ぶことは多いのではと思います。松戸市教育委員会ははじめ、後援して頂いた団体には感謝を申し上げるとともに、この会の趣旨が、千葉県の、全国、世界の市民に広まる機会となることを祈ります。

企画者トーク

青柳浩生（佐藤建吉）

「茨木のり子の詩情を、いま共有したい」

6月12日は、現代詩の長女といわれた茨木のり子の誕生日です。1926年生まれで今年は98歳に当たりますが、

80歳になる4か月前の2006年2月17日、くも膜下症で亡くなりました。そのメモリアルイベント「茨木のり子2024春」を、2月17日に東京の中目黒トライで開催しました。

今回は「茨木のり子2024夏」として、6月12日（水曜日）ではなく、6月15日（土曜日）に開催することになりました。当日は千葉県民の日でもあり、千葉県松戸市での開催の運びとなりました。茨木のり子の詩に「六月」があります。どこかに美しい村はないか／どこかに美しい街はないか／どこかに美しい人と人の力はないかで始まる三連の詩です。しかしこの詩に、六月の文字はありません。この詩では、村と街そして人と人の力と深めています。今回のイベントでは茨木のり子の詩情を紐解きたいと思います。

いま、世界では戦争や紛争、パンデミック感染症、顕著になった気候変動、そして地震や津波や火山爆発など、私たちの生命や生存を揺さぶる事象が共在し混乱しています。茨木のり子は、私たち人間が「生きる」ことを、「愛と平和」の観点から語っています。このイベントでは、朗読と音楽で、市民参加のカタチで、「六月」の茨木のり子の詩情を、これら三部構成で表現いたします。

まとめとして、茨木のり子の詩を素材に、愛と平和、人類の良心について考えるイベントに致しましょう！

#松戸での県民の日記念イベント実行委員会

会長／小山勝、副会長／久保田賢三・佐藤建吉、事務局長／横太、舞台監督／高谷秀司、監事／佐藤真理

#小山勝

高知県の出身。大手住宅会社の役員を務めた後、「逃げない、負けない、めげない」をキャッチフレーズに、松戸の朗読と文学の会の2代目会長として会をけん引している。高知県や島根県などのふるさと観光大使でもあり、世直しの必要性を伝えている。茨木のり子の詩の普及のために今回は、イベント実行委員会の会長として牽引。

#青柳浩生（佐藤建吉）

茨木のり子の夫、母、墓所のある鶴岡市出身。「金属疲労のメカニズム」で工学博士取得。その関連を、ソシオエンジニアとして地域活性化に応用。茨木のり子の行事活動もその一環。同時に社会を変える「できる状況づくり」を提唱し、「課題」を「チャレンジ」にする。一般社団法人洗楓座理事長&わがふるさと支援株式会社代表取締役、元千葉大学准教授。



第一部

生きる

いま、世界では戦争や紛争、パンデミック感染症、顕著になった気候変動、そして地震や津波や火山爆発など、私たちの生命や生存を揺さぶる事象が共在し混乱しています。

毎日の暮らしを生きる、未来を生きる、茨木のり子はどう表現したか、朗読を通して知りましょう・・・。

朗読

自分の感受性くらい

朗読／松島邦

ばさばさに乾いてゆく心を／ひとのせいにはするな／みずから水やりを怠っておいて
気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失ったのはどちらなのか
苛立つのを／近親のせいにはするな／なにもかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを／暮しのせいにはするな／そもそもがひよわな志にすぎなかった

駄目なことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ

時代おくれ

朗読／山川建夫

車がない／ワープロがない／ビデオデッキがない／ファックスがない／パソコン インターネット 見たこともない／けれど格別支障もない

そんなに情報集めてどうするの／そんなに急いで何をするの／頭はからっぽのまま

・・・

電話ひとつだって／おそるべき文明の利器で／ありがたがっているうちに／盗聴も自由とか／便利なものはたいてい不快な副作用をとまなう

#松島邦

朗読家・朗読講師・司会者・ナレーター。鶴岡市出身。早稲田大学文学部演劇専修卒、旅行関係のイベント業務を経て朗読の道へ。NPO日本朗読文化協会会員。都内、近県にて後進の育成に務める傍ら、小学校、高齢者施設等での朗読ボランティアを続ける。鶴岡出身の藤沢周平、杉村春樹・遠藤周作・小池真理子・岸恵子・平山弓枝、山本周五郎・小泉八雲。ほかに朗読劇／「一葉の恋」「たけくらべ」「悪女について」「ベアテ若き日のエポック」・「語りつごう あの日あの頃」「ジョー・オダネル戦争写真展&朗読会」等。



#山川建夫

東京都出身。慶応大学卒業してフジテレビ入社。モーニングショー司会の後、17年後退社千葉県市原市に定住し自然農業を25年以上実践。フリーアナウンサー&司会業のほか朗読講師&執筆活動。



・
・
・

何が起ろうと生き残れるのはあなたち／まっとうとも思
わずに／まっとうに生きているひとびとよ

汲む ― Y・Y に―

朗読／田中泰子

大人になるというのは／すれっからしになることだと／思
い込んでいた少女の頃／立居振舞の美しい／発音の正確な
／素敵な女のひとに会いました

・
・
・

初々しさがたいせつなの／人に対しても世の中に対しても

・
・
・

年老いても咲きたての薔薇 柔らかく／外にむかってひら
かれるのこそ難しい／あらゆる仕事／すべてのいい仕事の
核には／震える弱いアンテナが隠されている きつと……

わたくしもかつてのあの人と同じくらしい年になりました
／たちかえり／今もときどきその意味を／ひっそり汲むこ
とがあるのです

こどもたち

朗読／Yumiko

こどもたちの視るものはいつも断片／それだけではなんの
意味もなさない断片／たとえ視られても／おとなたちは安
心している／なんにもわかりはしないさ あれだけぢや

しかし／それら一つ一つの出会いは／すばらしく新鮮な
ので／こどもたちは永く記憶にとどめている／よろこびで
あったもの 驚いたもの／神秘的なもの 醜いものなどを

・
・
・

おとなたちにとって／ゆめゆめ油断のならないのは／な
によりもまづ まわりを走ることどもたち／今はお菓子ば
かりをねらいにかかっている／この栗鼠どもなのである

#田中泰子

一葉記念館、太宰治文学サロン、吉村昭研
会出演他、夏目漱石、菊池寛、松本清張、向
田邦子作品等朗読作品は幅広く、様々な演出
で舞台朗読を展開。邦楽、クラシック、シャ
ンソン等とのコラボ多数。吉村流地唄舞の師
範名取でもあり「語りと舞の会」も。一葉記
念館、産経学園他講師。パーティー、式典等
の司会多数。



#Yumiko

フリーアナウンサー・ライター。東京都出身。
千葉大学工学部都市環境システム学科卒業
（佐藤建吉研究室で水環境問題について研
究）。本日のMCを担当。

第二部

愛と平和

戦時中に高等学校と専門学校（今の大学）を過ごした茨木のり子。その体験は、多くの詩情を生み出すことになった。その心根は、いま風に言えば「愛と平和」。愛は深く大きい。平和は選びつくる。未来のために。そして eternity（エタニティ、永遠に）。

朗読

わたしが一番きれいだったとき

朗読／松島邦

わたしが一番きれいだったとき／街々はがらがら崩れて
いつて／とんでもないところから／青空なんか見えたりした

わたしが一番きれいだったとき／まわりの人達が沢山死
んだ／工場で 海で 名もない島で／わたしはおしゃれ
のきっかけを落としてしまった

・・・

わたしが一番きれいだったとき／わたしはとてもふしあ
わせ／わたしはとてもとんちんかん／わたしはめつぼう
さびしかった

だから決めた できれば長生きすることに／年とつてか
ら凄く美しい絵を描いた／フランスのルオー爺さんのよ
うに
ね

内部からくさる桃

朗読／本橋映子

単調なくらしに耐えること／雨だれのように単調な……

恋人どうしのキスを／こころして成熟させること／一生
を賭けても食べ飽きない／おいしい南の果物のように

・・・

ひとびとは盗まなければならぬ／恒星と恒星の間に光る
友情の秘伝を／

・・・

内部からいつもくさっている桃、平和

日々に失格し／日々に脱落する悪たれによって／世界は
／壊滅の夢にさらされてやまない。



#一色宏

愛媛県松山市出身。詩人シラーの「青春の夢に忠実であれ」をモットーに、洋画・日本画を学び、デザインの制作に携わる。美学・哲学の師に学びながら、人間がなぜ、真・善・美・利を求めるのかを追求し、デザインは単なる意匠や、コミュニケーションの手段にとどまらず、生活文化としての役割や、企業文化の創造のために、「Human Heart First」をモットーに、万象の共感を呼ぶデザインを探求している。デザインオフィス創美庵・未来創庵の庵主としてデザイン制作に専念。デザインの制作活動は、シンボルマークをはじめ、多方面のデザインを手がけている。朝日広告賞、毎日デザイン賞。NPO法人YDMアソシエーション理事長／NPO知恵の輪理事

長／NPO日本伝統芸術文化協会理事／NPO徳育と人間力育成研究所理事／NPOライフバランスリサーチセンター理事／ローマニア・ネットワセーター副会長／ミシアジアパシフィック・ビューティーコンテスト本部理事審査員。山田養蜂場のメッセージ広告は、朝日広告賞／毎日デザイン賞を受賞。シンボルマークのデザインは、世界192国に広がっている。

#本橋映子

横浜出身。ピアノ、チェロ、フルート、三味線など、音楽とのコラボによる朗読会に多数出演。朗読を田中泰子氏に師事。太宰治、夏目漱石、藤沢周平、絵本等ジャンルは幅広い。田中泰子主宰の銀の会会員、朗読と文学の会会員。お花も好きで学生時代に草原流師範取得。



それを選んだ

朗読／田中泰子

退屈きわまりないのが 平和
単調な単調なあけくれが 平和
生き方をそれぞれ工夫しなければならぬのが 平和
男がなよなよしてくるのが 平和
女が滲刺としてくるのが 平和
好きな色の糸を好きなだけ買える
眩しさ！
ともすれば淀みそうになるものを
フレッシュに持ち続けてゆくのは 難しい
戦争をやるより ずっと
見知らぬ者に魂を譲り渡すより ずっと
けれど
わたくしたちは
それを
選んだ

歌唱

もう銃をとらないで

歌／別府真也

もう銃を取らないで 引き金を引かないで／銃を構える
ことなく 横たえましょう／柔らかな草の上に 温かな
土の上に／貴方の銃を そっと横たえてください
夜は荒れた野を包み 風はやさしく吹き／きらめく星空
のもと 露が宿るでしょう／露はせせらぎに／せせらぎ
は小川へと／小川は大河となって 大地を癒すでしょう
砂漠は草むらに 草むらは茂みへと／茂みは林となり
森になるでしょう／花々は咲き乱れ／鳥たちは歌い合い
／心には安らぎが／頬に笑みが戻るでしょう
憎しみ合わないで 戦い合わないで／のしり合わない
で 殺し合わないで／見つめ合いましょう 互いの胸の
内を／静かに自分の心と 相手の心を
手を膝に置き 時に手と手を重ね／ゆつくりとぽつぽつ
と 語り合いましょう／好きな花のことを 詩(うた)の
こと 人のこと／そして祈りましょう 人と世のために
もう銃を取らないで 引き金を引かないで／銃を構える
ことなく 横たえましょう／



#別府真也
オペラ歌手(バリトン)。北九州市出身。千葉大学大学院自然科学研究科修了。日本オペラ振興会育成部修了。2010年ロータリー財団奨学金により渡伊、ミラノで研鑽を積む。藤原歌劇団では「セビリアの理髪師」バジールオ、「仮面舞踏会」トム、「魔笛」武士・僧侶等で出演。その他「フィガロの結婚」「ドンジョヴァンニ」「ジャンニスキッキ」各タイトルロール等に出演。第三回横浜国際コンクール第1位。藤原歌劇団団員。



作詩 谷川俊太郎

作曲 武満 徹

- | | |
|--|---|
| 1 死んだ男が残したものは
ひとりの妻とひとりの子ども
■他には何も残さなかった
■墓石ひとつ残さなかった | 4 死んだ兵士が残したものは
こわれた銃とゆがんだ地球
■他には何も残せなかった
■平和ひとつ残せなかった |
| 2 死んだ女が残したものは
しおれた花とひとりの子ども
■他には何も残さなかった
■着もの一枚残さなかった | 5 死んだかれらの残したものは
生きてるわたし生きてるあなた
■他には誰も残っていない
■他には誰も残っていない |
| 3 死んだ子どもの残したものは
ねじれた脚と乾いた涙
■他には何も残さなかった
■思い出ひとつ残さなかった | 6 死んだ歴史が残したものは
輝く今日とまた来る明日
■他には何も残っていない
■他には何も残っていない |

チャイルドソルジャー

歌／チーム金子

作詩／宮沢優、作曲／金子雄一

1

13歳 職業は 兵士
生まれたときは 戦争 だった
逃げて 逃げて 逃げられない
僕はチャイルドソルジャー
戦争しか知らない

2

さらわれて 銃を 持たされた
初めて撃った それは 僕の友
泣いても 泣いても 逃げられない
僕はチャイルドソルジャー
ふるさとを追われた

3

13歳 職業は 兵士
戦場で 先頭を 歩く
地雷で 吹き飛ば 生きる探査機
僕はチャイルドソルジャー
今日もまだ生きている
僕はチャイルドソルジャー
戦争はいつ 終わる



#チーム金子
2009年12月、旅する楽団「チーム金子」として結成された5人組のアカousticロック・バンド。以来、「憲法フォークジャンボリー」東京」という舞台を中心にさまざまな場所でも、おもに「民衆の歌ごえ」という意味でのフォークソングを歌っている。



この松戸の地にも、ツツジが咲き、初夏を彩っています。
六月は、風待ち月。新しい心地よい風を待つ。1960年
(昭和35年) 6月15日は、樺美智子が死んだ日。茨木
のり子の詩にはそうした激しい情熱があふれる。ビー・ボ
ールド、ビー・ブレイブというに相応しい心地よさもある。

朗読

母さんのアイスクリーム

朗読／松島邦

なんの御馳走だったかは忘れちゃった／でもデザートだ
けは覚えてる／母さんの作ったアイスクリーム／すてき
ともなんとも目が輝くよ

・ ・ ・

みんながぺろぺろ口のまわりをなめると／きまって母
さんが静かに言いだす／あの話

・ ・ ・

アイスクリームたべたいって／死んでいった兵隊さん
がいたわ……／僕 またかつて思うけど／神妙に聞い
ている

花の名

朗読／山川建夫

「浜松はとても進歩てきですよ」／「と申しますと？」
／「全裸になっちまうんです 浜松のストリップ そり
や進歩的ですよ」／なるほどそういう使い方もあるわけか
進歩的！／登山帽の男はひどく陽気だった／千住に住む
甥っ子が女と同棲しちまって／仕方がないから結婚式を
あげてやりにゆくという／

・ ・ ・

歳月はあなたとの別れの準備のために／おおかた費やさ
れてきたように思われる／いい男だったわ お父さん／
娘が捧げる一輪の花／

・ ・ ・

そうだ泰山木は六月の花／もう咲いていたなら辛夷（いぶし）の花
・ ・ ・
かの登山帽の戦中派／花の名前の誤りを／何時 何処で
どんな顔して／気づいてくれることだろう



泰山木の花



辛夷（ユブシ）の花



マロン入りアイスクリーム

和と雅楽と茨木のり子の世界

高谷秀司

詩作から『握手』と『六月』を取り上げ、茨木のり子の詩情の世界を、雅楽と結びつけて表現いたします。

握手

吟詠／高谷秀司

手をさし出されて
握りかえす
しまったかな？と思う いつも
相手の顔に困惑のいろ ちらと走って
どうも強すぎるらしいのである
手をさし出されたら
女は楚々と手を与え
ただ委ねるだけが作法なのかもしれない
ああ しかし そんなことがなんじやらべえ
わたしは わたしの流儀でやります
すなわち
親愛の情ゆうぜんと溢れるときは
握力計でも握るように
ぐぐ ぐつと 力を籠める

痛かったって知らないのだ
ブルガリヤの詩人は大きな手でこちらの方が痛かった
老舎の手はやわらかで私の手の中で痛そうだった

六月

吟詠／高谷秀司

どこかに美しい村はないか
一日の仕事の終りには一杯の黒麦酒
鍬を立てかけ 籠を置き
男も女も大きなジョッキをかたむける
どこかに美しい街はないか
食べられる実をつけた街路樹が
どこまでも続き すみれいろした夕暮は
若者のやさしいさざめきで満ち満ちる
どこかに美しい人と人との力はないか
同じ時代をともに生きる
したしさとおかしさとそうして怒りが
鋭い力となって たちあらわれる

雅楽師・ギタリスト・教育者。音楽ロジック「サウンド・ヴィレッジ」を40年前から開設しロックミュージックを振興。茨木のり子の詩情遺韻を和琴で（ときにはギターで）、静動心魂にて朗詠演出。
再チャレンジ東京の企画室長でもあり、道徳教育を実践。大阪府出身。



#雅楽

雅楽は1200年以上の歴史を持ち、日本の古典音楽として、また世界の古典音楽として外国でも非常に高く評価されている。
日本古来の儀式音楽や舞踊などと、仏教伝来の飛鳥時代から平安時代初めにかけての400年間あまりの間に、中国大陸や朝鮮半島から伝えられた音楽や舞、そして平安時代に日本独自の様式に整えられた音楽。
奈良時代・平安時代から、雅楽の演奏は、宮廷は勿論、寺院や神社において盛んに演奏され、そして1000年以上、京都・奈良・大阪の専門の演奏家によって伝承されている。明治時代に宮内庁式部職楽部が創設され雅楽を伝承している。
謳う／舞う／囃すの三つが様式の原点として演じられる。能や歌舞伎として伝承され、発展してきた。

新・千葉県民の歌

作詞：青柳浩生 / 作曲：高谷秀司

安房：

夢を追い求め、海をこぐ
安房の海よ、輝き放て
誇り高く、未来へと続く
千葉の時代、輝く海

上総：

夢を追い求め、大地を進む
上総の大地、実り豊かに
誇り高く、未来へと続く
千葉の時代、輝く大地

下総：

夢を追い求め、街をつくる
下総の街、光り輝く
誇り高く、未来へと続く
千葉の時代、輝く街

千葉：

夢を追い求め、人をむすぶ
千葉の人、愛を携え
誇り高く、未来へと続く
千葉の時代、輝く人

みんなで歌う

歌／チーム金子

鳩を飛ばそう

作詞：宮沢優 / 作曲：どんぐり

砂に描いた絵のように 砂時計のように
風に吹かれて 鳩が消えてゆく
早く 早く 早く
鳩の羽が消えて しまわないうちに
難しいことはなんていない

みんなとてをつないで もう戦争はいらないと
みんなとてをつないで 大きな声をあげよう

いつもどこかを飛んでいる 危うく飛んでいる
私のまわり 恐怖に打ち震えて
速く 速く 速く
鳩がすっかり消えて しまわないうちに
難しいことはなんていない

世界に続く空に もう戦争はやめようと } 繰り返し
世界に続く空に 大きな歌を響かせよう }

大きな歌を響かせよう 大きな歌を響かせよう



デザイン／一色宏

宇宙の大愛に包まれし地球
新しき夜明け 世界五大州の夜明け
海は すべての生命の故郷なり
国々の文明・文化交流の海路

豊饒の大地は 美しき緑ひろがりて
英知と情熱の 働く力は高まりぬ
鳩は喜びに 清き心の羽根ひろげ
万物の母の使いか 善美の女神なり
優しさ 純なる魂の導きか
真理と 知恵の翼は羽ばたけり

”愛は努力である” とプラトンは言う
マザー・テレサは ”Love is Action” と
愛と思ひやりの 宝座は人間生命の奥底に
心より出ず 願いし使命は 世界の平和



#小森俊明
作曲家、編曲家、ピアニスト。東京藝術大学を経て同大学院修了(作曲専攻)。現代音楽、クラシック、異分野のアーティストとのコラボレーション、フリー・ジャズ、合唱の各分野で活動。日本交響楽振興財団作曲賞、東京国際室内楽作曲コンクール、AACサウンドパフォーマンス道場(愛知芸術文化センター)、EXPERIMENTAL SOUND, ART & PERFORMANCE FESTIVAL(トーキョーワンダーサイト)他多数入賞・入選。「ヒバリ震災義援音楽配信プロジェクト」で楽曲配信。桐朋学園大学講師を経て(一社)日本作曲家協議会会員、日本クラシック音楽コンクール審査員、即興ユニット「空観無為」ピアニスト、サイケデリック合奏団「邪宗門」シンセサイザー奏者、「Social Arts Project」同人。主要作品は、音楽之友社、カワイ出版、マザーアース、イレース、JFICより楽譜出版&芸術全般著書7冊。

洗楓座による茨木のり子の行事開催のまとめ

2024. 12. 21	茨木のり子2024冬		
2024. 9. 21	茨木のり子2024秋		
2024. 6. 15	茨木のり子2024夏		
2024. 2. 17	茨木のり子2024春	中目黒トライ	http://www.kofuza.com/html/images/noriko217flyer_facethttp://www.kofuza.com/html/images/noriko217flyer_back_rev.jpg_rev.jpg http://www.kofuza.com/html/images/noriko217detail.pdf
2023. 6. 12	茨木のり子&金澤翔子 バーステ ー記念イベント」〜いま二人の 筆跡から学ぶこと〜	北とびあ（北区）	http://www.kofuza.com/html/images/flyer612.pdf
2022. 11. 23	茨木のり子2022冬／対話	日比谷図書文化館 小ホール（千代田区）	http://www.kofuza.com/html/images/noriko1123_face.pdf http://www.kofuza.com/html/images/noriko1123_back.pdf
2022. 11. 17	防災食を味わう『茨木のり子の献 立帖』のメニューから	旧軽井沢公民館 大 会議室&調理室	http://www.kofuza.com/html/images/karuizawa_1117.pdf
2022. 11. 6	日本語を味わう ― 茨木のり子の 詩作を題材として	くつかけテラス（中 軽井沢図書館）多目 的室	http://www.kofuza.com/html/images/1106_face.pdf http://www.kofuza.com/html/images/1106_back.pdf
2021. 12. 22	茨木のり子2121冬／歳月	日仏文化協会汐留ホ ール（港区）	http://www.kofuza.com/html/images/back_final.pdf http://www.kofuza.com/html/images/noriko1222_back.jpg
2020. 10. 9	茨木のり子2020秋／怒ると きと許すとき	東京ウイメンズブラ ザ（渋谷区）	http://www.kofuza.com/html/images/face_rev.png http://www.kofuza.com/html/images/back_final.pdf

2019. 11. 9	茨木のり子2019秋／寄りか からず	タワーホール 船堀 （江戸川区）	http://www.kofuza.com/html/images/funahori.pdf
2019. 11. 5	『寄りかからず』開催予告	荘内日報	https://www.facebook.com/groups/2518042215133523/posts/2556934047911006/

コラムなど			
2023. 3. 21	鶴岡と茨木のり子と鶴岡	文化通信第41回	http://www.kofuza.com/images/bunka_41_321.pdf
2022. 11. 22	茨木のり子の故郷／愛知県西尾 市	文化通信第37回	http://www.kofuza.com/images/bunka_37_1122.pdf
2022. 2. 1	茨木のり子からみる男女平等参 画／男女共同参画との関わり	茨木のり子六月の 会、会報、第87号	http://www.kofuza.com/html/images/gatu_2022.pdf https://www.facebook.com/photo?fbid=4901292996624154&set=pcb.3207516112852793
2020. 9. 14	「出来る状況づくり」と女性の力	文化通信第5回	http://www.kofuza.com/images/bunka_5_0914.pdf
2015. 1. 26	茨木のり子のメッセージ	新エネルギー新聞、 第18号	http://www.kofuza.com/images/neu_18.pdf
YouTube（Youtube）			
2023. 6. 12	北とびあ 写真ダイジェスト版		https://www.youtube.com/watch?v=WKCYtiNaga_U
2022. 12. 29	茨木のり子2022秋／対話		https://www.youtube.com/watch?v=b8xNtJLW-eE

Facebookサイト			
2022. 11. 13	茨木のり子「言の実」の会		https://www.facebook.com/groups/1017829096275726
2019. 9. 16	江戸川茨木のり子の会		https://www.facebook.com/groups/2518042215133523